

放送日 令和7年3月4日（月）
担当者 教育長 吉田 孝志

皆様、おはようございます。教育長の吉田孝志です。

職員の皆様におかれましては、北広島市の職員として、未来に向かい大きく進展するまちづくりに心を躍らせ、市民目線を大事にしながら、日々の業務に当たられておられることに敬意と感謝を申し上げます。

さて、今朝のスピーチは、私が小学校の校長時代、子どもに話をした講話のひとつを例に、その任を果たしたいと思います。

これから3つのエピソードをお話します。どんなお話か、注意深く聞いてくださいね。

一つ目は、小学生の頃のことです。時間を忘れて暗くなるまで一緒に外遊びをしていた友達との別れ際に、友達が、「あれはオリオン座、そしてこちらはカシオペア座と北斗七星だよ」と、夜空を指しながら教えてくれたのです。星座の名前を知ったその日から、私は夜空を見上げ、その星々を探すようになりました。いつでもそこにあったのに見えていなかった星が、急にくっきりと見えるようになったのです。

二つ目は、中学生の頃のことです。掃除当番のとき、自分が躓いてひっくり返したバケツの水を一緒に拭いてくれた同級生がいました。いつもは言葉遣いが乱暴で、声も大きく、「ちょっと怖いな」と思っていた同級生です。優しく、親切にしてもらったその日から、その子を自然に目で追うようになりました。すると、急にその子の優しい姿、別の面が目に入るようになったのです。

三つめは、教師になりたての頃のことです。教え子から、「先生、ドウダンツツジの下にボールが入ってしまったので拾ってください！」と言われたのですが、私はそれまで、その低木が「ドウダンツツジ」という名前であることを知りませんでした。ドウダンツツジは、垣根によく使われ、秋になると葉が真っ赤に染まる低木ですが、不思議なことに、名前を知ったその途端、ただの景色にしか過ぎなかった垣根が、名前を持つリアルな存在として、目に付くようになったのです。

人って不思議ですね。「見ようとしないと見えない」ようにできているようです。さあ皆さん、自分の周りを見渡してみましょ。世の中には素敵なもの、美しいものがたくさん隠れていることに気づくはずですよ。

この話は、市職員として職務に精励されている皆さんにも通ずるところがあると思うのです。私たちは、日々の中で繰り返される仕事や取組に埋没してしまいがちであり、前例踏襲型の仕事ぶりに安心感を覚え、安住してしまう傾向があるのだと思うのです。だからこそ、自らが見ようとしなければ見

えない、自らの気づきがなければ変わらない、そうしたことが身の回りには数多くある

ものです。日々、新鮮な感覚を持ち、新たな出会いや発見の連続の中で、業務の改善に当たりたいものです。

私は、卒業式などで「未見の我」という言葉を子どもたちに贈ることがあるのですが、これは、内なる自分の中には未だ出会えていない自分自身が必ず存在しているという意味合いであり、子どもから大人までどの世代であっても、新しい知見や考え方、新たな視点や見方、感じ方との出会いによって、胸の内深くに秘め、表に出ることのなかった自身の内面や、未だ気付いていなかった自分の能力、ひょっとしたら諦め、埋もれかけていた思いなどに気づき、向き合い、新たな一步を踏み出すことができるという考え方です。

市民のために、まちづくりのために、日々に奮闘されている皆さんではありますが、皆さんも「未見の我」との出会いを探し続けてほしいと思います。どのようなステージであっても、公務や人生における新たな地平を切り開いていく力強い存在であってほしいと願います。

終りになりますが、職員の皆様には、総合計画に掲げる目指す都市像の実現に向けて、常なる自己更新に努めるとともに、今日的な諸課題の解決に挑戦し続けていただければと思います。今後もよろしくお願い致します。